

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

産業分科会 議事録

日時	平成21年 7月23日(木) 18:00 ~ 19:15		
場所	長浜市役所 本館3階第1会議室		
議題	次世代成長産業の振興について		
出席者	分科会委員 *敬称略 吉川富雄、村上宣雄、伊藤兵一郎、阪本重光、吉田豊、国友隆房 塚田益司、松井京美、嶋崎善弘、森田義人、松本長治		
市	分科会事務局(商工振興課) 大塚義之、小谷勝也		
6町	なし		
傍聴者	あり(2人)・なし	報道機関	あり() (なし)

【協議結果】

- ① テーマ “次世代成長産業の振興について” のまとめ
 - ・産業版地産地消を推進する。
 - ・小規模企業用の工業団地を整備する等、支援策を講じる。
 - ・次世代技術者を育成する土台づくりを行う。
 - ・工業用地の適材適所調査を実施する。
 - ・地場産業も大切にしつつ、次世代産業の振興策を講じる。
- ② 次回日程とテーマ
 - ・次回日程 8月20日(木) 18:00~
 - ・次回開催場所 「長浜市役所本館3階第1会議室」
 - ・次回テーマ 「環境に配慮した農林水産業の振興について」
- ③ その他

【主な意見】 (要点列記)

- | | |
|------|--|
| 市 | 産業振興の現状と今後の取り組みについて説明。 |
| A 委員 | 地場産業の振興を目的の一つとして開催されているきもの大園遊会だが、実際は縮緬を着ている人は少ないと聞いている。最近、長浜から他地域へ転出してしまいう縮緬関連企業も出てきていると聞いている。市として何らかの手立ては行っていたのか。 |
| 市 | 浜縮緬工業協同組合へは助成を行っているが、個別企業に直接支援はしていない。 |
| A 委員 | 個別企業への支援制度はあるのか。 |

- 市 今のところない。融資制度はある。
- B 委員 現在の入札制度では、大企業が有利である。総合評価方式にするなど、地元製品を扱うものに有利になるような仕組みづくりとすることが必要。地元の製品を使った場合に一定の補助をしたり、入札の条件の一つにしたり、といった仕組みづくりを考えなければいけない。農作物でいうと地産地消のような地域を循環する仕組みづくりが大切。
- C 委員 岩手県や富山県などレベルの高い工業高校があり、優秀な人材を求め企業が数多く進出している。技術者を招致するなど、技術を持った人間が育っていく環境を整えることが必要。
- D 委員 “〇〇のまち〇〇市・町”など、各市町には、まち自慢の産業がある。伝統、誇り、連綿と受け継がれてきたものを継承していくことも必要。合併することで幅が広がる。
- E 委員 地域産業の活力が上がるような環境・土台づくりが行政の施策として必要。現在行われている企業誘致は大企業中心で、地元の中小企業を支援する環境づくりが足りない。この地域には、機械部品等を扱う規模の小さい会社が多くあるが、次の後継者が出てこない。その理由の一つに、多くの会社が住宅地の中に工場があるが、工場を移転したいと思っても、中小企業に合った工業団地がない。中小企業を集約し、次世代の若者の定着も図りながら、新産業興していけるような工業団地を整備してほしい。地元根付いた中小企業をもっと大切に作る風土を築き、行政にはその基盤整備を行っていただきたい。
- C 委員 農地を工業団地にできるような制度改革を。土地の適材適所を見極め、できるだけ投資が少なくて済む開発を望む。
- F 委員 合併によるスケールメリットを生かし、農作物にかかわらず工業製品なども地域内で循環できるような施策を。
- G 委員 “産業版地産地消の推進を、” “中小企業のための工業団地整備を、” “技術者の育成、” “工場立地の適材適所を明確化、” “地域に根付いている地場産業も大切にしつつ、次の取り組みを、” といったご意見を今回のテーマの提言としてまとめさせていただく。